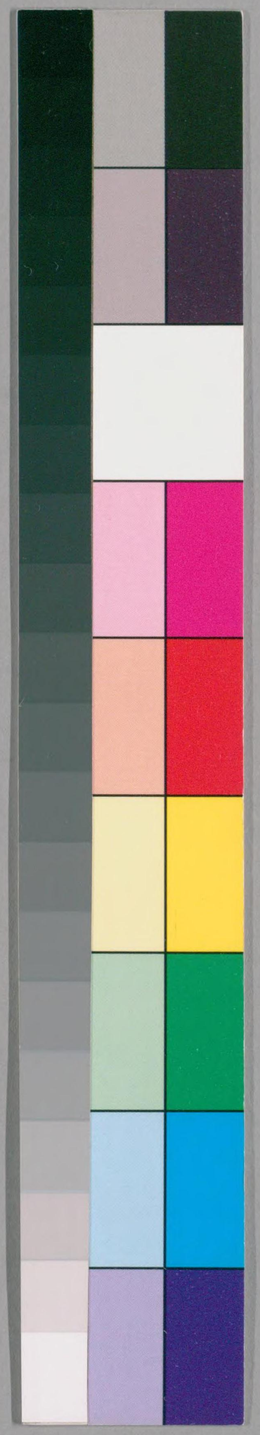
古今和歌集序註

847
15



国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15

ガラス使用

古今和歌集序註

全

847
15

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15

ガラス使用

山戸ニの

一やまとうた　家隆乃よの民
山戸ニの
山戸ニの　やまとうた　堪能のこと民

文云大倭（コトワザ）かやうに書てやまとうたと
訓もわきまへなることゝもありと
覚しかし　定家朱雀院乃勅を
指（さす）
ことゝもありと云ふ説くまつことゝ
一ふみ一切乃名称のまよりて
ろまの義や
こゝに日本乃名を云ふ（ヤマトシテ）
云和名抄

今井俊右郎氏寄贈本
龍谷大学図書館
昭和十四年購入

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15
ガラス使用

由乃ことを系るすべくへく大和ことを云ふ
三まい羅針(ラシン)之義也を事実事(ママ)より伊呂天竺
大唐へうつして詩乃ことを義をすべ天皇乃御み
希世(こしよ)乃宰相(さいしやう)虞使(ぐし)をすは日本へ移して事の
ことを義をすべ三代やうをきらゆへよ大和ことを(オホヤマトコトウタ)
宮天下五名すべくを性非情(やまとこころひと)
も賤してをあふ事をきれくをりそいもなる
ものさまやうをもむことを系るいもなる
又まい初撰乃姓万葉集と奈良乃京まて撰定を
しゐよ奈良即大和ことをいふなり

万葉まい和ことを事くやまとことを
とをくやまとそうもや万詮やそ
うて大和ことをてあきまやくをと事
人ことを云ことをもやうなる詞もいもの
ごうの万よ人乃作乃云
綺語(キヨクノ)者(イフハイツワリノ)戒(カトサイワイノ)華(ニト)厳楽曲(カクキヨクノ)之(ミテアソビ)
六和ことを家訓(かきおき)の云大和列(やまとたち)と事ことを
をもうなるゆへよ方のいけをを
ことの比字(ひらかな)をなりをを奈良京乃
ころひらかなしらけ和のまよ字(ひらかな)を

假名とハ文字乃音ばかりにたよれりあらはすへをとらやうを
いふ也皆梵字乃音を取りてやはらけし文字なくハいふそのかな和哥
を作りけるすへき也此説と多くの物も此国にはなくゆるへし
七まハ天竺乃梵語(ボンゴ)震旦(シンダン)乃漢語にまうつして我朝(ワカテウ)
にやはらけ字乃義を我朝三ヶ国に伝りて大きやうを
未音と云也其前なる天竺なくハ釈迦と成く佛法を
ひろめ唐土なくハ孔子老子と成く文をひろめ我朝
にてハ人丸赤人と成て和哥を作りし前ま(ひらき)ひらき
あひし教なく大和言ともいふやうく師よ習ふへし
標三家之説ハまちまちなれとも人丸旨趣(シシユ)此同義也けれハ

こと天竺震旦より傳るにもあらす此ぞ其国乃風俗と
して自然に出たるものなれともむしろの言葉を其まゝに言れ
そのまゝに大和言と名付たる也
やまとゝハ日本和也名や其也名足多し
扶桑(フサウコク)国　和面(ワメンコク)国　和奴(ワヌコク)国　水穂(ミツホノクニ)国　其外借名等（日本の事を名付しと云ひけるハ流石）
ハ唐人よりつけたる国名也　容国乃人の自流言するは磯城(シキ)
蜻蛉(アキツ)島とも若木の御津国とも大和国とも秋津洲根
とも名づく磯城島とも入り此中に古今乃序には
我国乃詞を名として也まとうたといふりハ又大和山
山跡(ミノ)哥説也其名細和歌乃義味の始国土いまた

扶桑とは君子国
野馬台国
和人国
日本国
姫氏国
是らハ唐土より名付

かくまでつづ流派おくをしは人民山の住を山林と
もそのの山元とを又山よ人乃号語をき石よ山語と
ニや故郷をも語乃国といんとてやまとうことな
うへをもやまあまい大和のとい人うのもの孔和国
生をう意ともむ人い皆七孫よこの乃種を異なり
喜の乃種と云い陽智恵を種とする石を方和を笑ふ
もれなの

一心を種としてをも甲人のい識帰の孔種も一切の
元生各八識あり喜中乃甲六識を種として一切
乃ほを甲六識うをや成佛のかい甲六識ぬ

縄索智とかく無明煩悩を断して一切種智を
や石種とれいそれをもくくをも組大和のい人のいを種として
もや組大和の乃実義まを注顧まへ大略めに
一もの川乃をも葉とをな事うをもいのと
述の号当風月の詞をいひあうをもいきうい事
葉とい人り
一花よなく雪水まむ蛙乃
和当の言のをもうち石をれとを事め芸云もよく
雪れまむ河清とをい一切乃出る世界れとを
学乃をの甲のい元初まなく石よ一をあもて云も

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15
ガラス使用

又同じ詩云の道いおよそ境をかく義を取る事
なり此事おほくその例あり今文あるや
云実には本文を異死云々和國は蕃寺と云寺
あり蕃寺はある僧かくいとおそろしき
犯して後師のくるをせきうち殺さまほしく
侍るをまもりの男乃妻の梅をとり
ものいはぬ程にとらへくくしめ
等あるとなく蕃寺普通の
て初唐(ソウ)こ(コ)ろ(ロ)ひ(イ)ふ(フ)さ(サ)う(ウ)げ(ゲ)ん(ン)
初陽毎朝来(ハツヤウハルノアシタゴトニクルキタレドモ)不相還本(モトノスミカヘリ)栖(セイ)
とよめる僧のともおりひくく事をなくく岳よりる蕃

和尚蕃より返来れりと聞きて
きまの来くてよるひと寝やとも云ふ
やくおりひ又あくるひけるとき
又この僧乃云のとき事也と思ひ
きらひまある男女ものあひぬ後乃事を
次乃年又僧方へ行ひくなく女を尋るよ女いなくて
家もひとしめる程なこの僧
みまは受給云のとなる
僧云おこ法のみるとすき詠
け云のを哇乃云ともいまれ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15
ガラス使用

雪水をすゝぎ河伯と云河をいあけるも
一いきそうといきるわざなり命をとりて皆言の也と云
をつよい生そう生きるわの智
是い生まれ乃智言なりと云事まゝとそう云ふは
言ハ文句よつて心乃有情(ウシヤウ)又ハ形なり
ハ形とするハ生数乃智(ヒヽキ)なく
言と成と云言をわりよ活(イキ)ともうす事い和言乃文言
乃活(イキ)頭(カシラ)まわりおもも大言ハ氏又云事一乃句をハ火の
句と云事二をい本の句と云事三とハ金乃句と云事四を
ハ五乃句と云事又をい水乃句と云事又も又を妙法蓮花

経乃文字乃数目ま而乃ハ大輪ありかう事
ま一故ま生そういきもおとの人乃方法皆ありかり
いきてをみをま一三まい文句乃皆言やとりまの如ふ
大根也ま言ようにる人を智恵(イヒ)と云是
文章言乃文句やとそう人ハ一つまつ言をとりにる
言をとゝへてあそん人と云よ
一あのうちをうこうすと云事まゝ
神地神ま氏言まい気をなし
風情まい天地ま本おる事ま一故よ天地(アメツチ)をうと
すと云事ま三まい天地いあわなる故よ言をとめい天地

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15
ガラス使用

をうこうすとそもり但実義枢こ別要そうへ
一めよ人ねねよりをもめそれそれをこと也と事一ゐい
言いなきをもしねとする友よ鬼神も愛と思ういうも
も又如説をり如也と六智天官師守よ藤原千方(チカタ)将
軍と云人伊賀伊賀乃両国を討まるて王命よも
きこういきらしを中初(トモ)と友雄と云人をきけるすよ投
手方い風鬼一鬼水鬼金鬼とくく人乃鬼をつひと人
乃うつ包きをもなし風鬼い風と家と敵乃城を焼や
ち金鬼いきおのくきれもいねも矢も刀をきそ土鬼
いき紀なこく方論をのくす酒をも水鬼い浩水(コウスイ)と成く
うくきをまうこうを酒をねよ千方をうく事の
さし時友雄一そ乃言とよのこて四鬼乃中へ入っ
ゆそ其言の云
茅も本を折やきを焼ちれいつくかなのやうきこむ
四鬼これをこてさて王九国や千方乃家あるいれら
きをまとをいひくき事をまたい四鬼皆国をいくなり
極も方もうこれよりを是も鬼乃うを詞(トウ)也
一称乃言よめ乃る事い本文の及ますけねる国きまも
但書本
初てもへくく成ぬ注これをし乃ひの社業代記あるへ人

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15
ガラス使用

不可神の造事よ

くさぐさにて坐されありきさぐりて
つもしも也もろくまよ御長にて
伊弉諾尊　伊弉冉尊（タケシリクニトコトタチノミコト）　日本
されど先いあり乃神をまくに乃海の
とよかきまして一乃滴をおりそや
魂まあらゆる時を地祇天代とそや
日祇月神　蛭子　素盞嗚尊
岡を地祇天代とそく日祇をあそまは
苔を日祇とそいは也名まくは神よ二祇あり玉祇本祇と
されど伝勢多祇とそいは同かあ文まて一国乃事也天日ま
事也是も和地ハ天日を地名まくは真国よ金剛胎蔵
乃二乃あの蔵乃月祇を地名まて本祇二あり
されど也をあくる時ハて日祇あされど別していそあ祇あり
是則文乃祇也日祇よ本祇ハ火祇と素盞嗚尊い金祇と又地神代とそく生（ソウブ）お漬乃祇を
天照大神（ミヤワレヒルメムチノカミ）　天岩戸（アマノイハヤト）に幾古隠（クハヤヒアメノ）坐（マシテ）時（トキ）
火出見尊（ホヲデミノミコト）　奇瀛尊（クシイナダヒノミコト）
天津彦尊（アマツヒコノミコト）

れる世をたくひなやこの御代をみ仏の
道にいさるといさをの兄ことりめて
高光婦を風に付侍冊命の
天津姫御婿勢至今歳阿良両朴之始而面覚
ひさのとあめつちをりまし時
やそよ三十一字乃中一番くしけり
にかかことをたしおろとそや落
一久方のあめとそ天の名やひさ
方とつくる用そいいさるきいさるみの兄をしりく
男山松ろく十方を定めし時
生そそくひさまことそ二ついく久形と申ろ月は国源の
かるくいつをかけすある名は久形とそお足は月とそや
三ついく久形とそ光ろ屋をは名屋とれそろ日ま膝
形とろ是は春光天皇乃后乃膝乃くとし
まろ紅乃ろ風ろみろを式活下乃月は仙とひた
こしをひさことや仙用よりれることを三立御前と
一番乃歌をこの前と
一あるよりきくのろまていろまろ
是は天乃歌よあります天照を祈すのをれるといくき
見んとせし時乃祈うなりて乃和歌つくき山のあ

子の岩戸を開きしより
あまのうきとをもれ
そまうまい氣長足姫尊
かをもちゐ時又三十一
ねうとの秋のころ
せうとい兄や是
る生馬武尺
みうつりてかくやくを
ふとをもひ
武尺のこいそひを
そは前坂をきまへ
又をとゝ
そ稚日女尊
仙宮歌前集
一名金地つてといひ

乃始や
草木もいまさかまろ
し時石と金とを
海をあらねのとゝなり

一日うとの秋のころ
ふとをもひ
天やうをはしめとの岩戸
かをもちゐ時又三十一
ねうとの秋のころ
せうとい兄や是
る生馬武尺
みうつりてかくやくを
ふとをもひ
武尺のこいそひを
そは前坂をきまへ
又をとゝ
そ稚日女尊
仙宮歌前集
一名金地つてといひ

乃始や
草木もいまさかまろ
し時石と金とを
海をあらねのとゝなり

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15
ガラス使用

仁実別殿の秘ニ別殿まであるへし

一天のとりみそとていりまてゝ天照ス神をうちまつり
んとてすきのをもてなる天和国宇豆(ウヅ)の野よ一よ
一よの数をかきてゝ神なる神いやく毎ニそ天
乃岩戸な蓋をひく雲乃やみ成ふる神を清(ミヤウ)
覚とて天和歌天香久山(アマノカグヤマ)とゝ示よ八百万(ヤホヨロヅ)余神達(ノカミタチ)をあつめく
庭火(ニハビ)焼ゝ天神乃浄かゝらを
付てうゝひ(まひ)ゝらさきみねうん
乃日前(ニチゼン)ゝ(グウ)ま婦女ゝあ里婦女ゝねゝ
やゝく祈達まひおうひてゝ祷を
岩戸をひゝくあゝまゝうし
ゝ岩戸をあゝねゝ力雄(チカラヲノミコト)ゝ
とゝゝゝみつをまつせてあるみ
神岩戸ゝゝすきのをゝるとおいもの
ゝゝくゝとひあらきみ
不ゝゝぬゝ布ゝうひてなゝ
しゝゝれゝゝけいゝ神乃国ゝて
汚をなゝてゝく毒病ゝゝゝ
ゝ毒病ゝゝ神ゝ海中ゝ八衢
ゝゝくゝひくゝ老翁一人うゝき

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15
ガラス使用

女をいろきて海よりもとみて
宮女人を新云ふれをうたふ
やしくるう神通もきしくる
姫や海中うらい乳龍(ニニタノクロテ)うた地(ヒ)
今い稲田姫をそうんてまれく
云ふをもこをよねおとう
ふをうらぬてもこまうん人
ヨクを八遊(ヨ)てもめく
(本)八乃(ハ)ふう
(十八乃歌本語と入くをきとくの説をねきてもちもちくく)
八乃うらとも入くをえひてかるこみをこつの説
とぬきてくきこのふを切(セ)うし
ぬ雲庭うん八乃(ハ)乃(ノ)云

とてくれを庭をさ見くこれを説を天村雲説をう
きて姓名よ文造りしていまよ
よりひこ也しみ与乃命よ新云
八雲きうい与やへのきみを
宮へのきつくれうつをやへつきと八新の
八をきうは八文新をうの
ほのれいきや降くえをとる
をく名書とい稲田姫大山
非二者乃命やこ江新与
色し又比与を稲田姫乃命

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15
ガラス使用

ちかい男と法ときこえなり

一をきのと丸をといひあまてるかみ

ゆうちまうせくいあまをところ

ま米こころまと神くことろうこと

紅葉義有

一ちやわぬるこころ石乃ゑを一

戸なをりまき乃時詠乃秋

とき紀く秋ものをうひくこ

時乃秋宮を乞うきてもの

き給へうちやわ乃神をうら

いや多秋と千葉振とうをもち心(ヤトメ)女をみをきる

祖なり秋乃汐紫来なるへし

宮多ゆへりたくきをしや

りまて乞てあしまや多

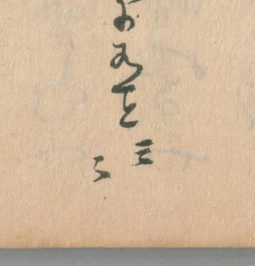
とも吳い乃秋まうきをくこ

八乃詠とまたる詠きや

三ま八乃照乃秋乃茅葉乃社

を秋生をきうてうれやしろ

や



のくれもみちいま八宇治乃宮義よみを三

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15

ガラス使用

…秘し秘し中…
…あるへし
一人の世こゝろくるしく…
…とのいつもいと忙しきのみありて…
…うれを人の世とゝくとも古詩抄をこゝろ安寧天皇
乃治字世の政ともして出雲国へ…
お会ありて治政ありて天皇還幸の時の…
とゝまんて玉をもてるのけるこのよ
天津日嗣（アマツヒツギ）ノ事（コト）ヲ（ヲ）ハ（ハ）ジメ（メ）テ（テ）ヒラケ（ケ）シ（シ）ヨリコノカタ（カタ）モ
天津日嗣恵岡氣政納礼（メグミヲカケマツリヲサメ）給（タマ）ヒ（ヒ）シ（シ）君（キミ）ノ（ノ）御（ミ）世（ヨ）ニ（ニ）サカヘ（サカヘ）ヤ（ヤ）モ
けとの乃ゐの玉乃ひとをあまねきよ…
…氏もなひふるとゝもや

けとの人玉ゝゝ…
一みるもしあるもいとゝ玉一乃ゐの…
一花をめくこいもの乃面白ゝめつゝゝゝや
一鳥をうゝやとゝ人ゝまて又きゝゝす郭公いと…
…来るとゝやもや
一鳥をゝのれんこいゝをゝのれ…
…ゝめあれ世も又きしやをきを…
一鳥をかるしむとゝきしやをきを…
一こゝろきゝをいくたつあしもとゝ…
出る一足ゝゝいゝつくゝをりめやとをり又文集ゝ

多里始之下山起嶺麓とそら

一叡もとのそらをよこのくもゐて是いそくらをや

麓居地ちとそ是いそくらをや

法師乃説や二よ麓泥。麓油断陰説小麓とそら風し

宅家説不説いつもしもわされそら

葛城哉豊浦之山野風起ぬ普本野澤細き散良志

大同集云

大体良女奇よ

大小山行者遥氣小麓野重而成小雲懸流覧

こそそらましいつまで乃そを小麓丸和や

一雑波津の奇いや門乃りめとそいと乃方ち人王乃りしめ

まいあるす仁徳と皇丸帝門よ成ひしし姓乃言とそ

枝葉託ん應神天皇よ文人乃王

うぢ家 二まい長良支 三まい具女支

雑波津支 大まい維道王子 今い宇治稚郎子是や

う漢 長良 具女 三人ハ皇女乃維道

王子よ位を譲王奉りね維道王子そて雑波津支よりぬ

又孔雀明王の法をうけさせ給ひて
そて兄弟たちひとゆかりの人々
まで我いきそれをなげいの文い給よりはき給ひて
給ひて乃浦よ男をなけて配所へおくりつかはされ
く雑仕清実信よつき給ひしかは王仁をば乃もちや
雑仕清乃毒乃信よ付きて給へきむねを申
乃信そなされて各竜宮へ
今いまへとくやこと乃をとはいまをは乃里まく時
乃ものもまもるや山ふの人をは乃代ものと二番乃奇や

王仁を百済国より来れる人と文道乃祖師やこ
記もとい梅乃もや
一あさふ乃をとをねめのをもれもをいなよ
ふ川のもも五一字乃ふの手乃王よ葛
年をおこそ智天皇の御時天智才一乃王よ葛
城王乃もの乃守ふ給ふもし時ふ乃歌
ますふ一ふて投(フリ)ふ一かひし時近江乃采女ふを
女をもてふり給ひし時乃奇や投采女ふ御衣乃
如意や乃尻在(アリ)ふ乃姫や
あさふ山住ふみぬ山乃井の清水ふ人をたふみゆは

こののち山乃井の水あさくなりぬる心あさくも見えじとよめる人の
もとへてらすとありければ
一ゝのちのことば詩や六義といふ一つの風ことの賦ことよ
比興正風雅頌や須や風といふ事やうへ
おなじきあるべし
一ゝのちさよもつやとこたへ六義乃事や

一ゝのちのことば詩や六義といふ一つの風ことの賦ことよ
比興正風雅頌や須や風といふ事やうへ
文をするもみぬよの事ぬる事あるべし風とそかへ
とりけゝの面よりみてすべてなべての歌をそれとこゝろえ
ちこの石ゐ風乃ごや仁徳天皇代の事をくしてこの文
乃事也ゐさ乃帝ごもや
二ゝに賦といふ浦やかすへ
まこあるやとへて

さくら乃かれいはく方語あらき言に述たるをうたのいまもさく
さくもよ思ひつくすといふは愛心やいろつきといふ无常や
文記録云相如帰章々菴喰蓬記年序忽
忘无常懐善とあり文乃心ハ相如といひし人あ
る人乃ときんありて岳岸と云野よなりされしに三年
かわりて哀恵とて三十年乃文を作りて王子奉りを
る子賢人なりとて召帰して天下政後見をなさる
されハいろつきとハ无常や又文選よハ煩の字とい
ゆきとあり　心ハ積煩而官事鬱常なりとあり
又は労乃字をよむ事もあるハいろくさ也といへるも

此哥乃心ハ无常の字よりをこり不方つきまんあまりにわ
るいふハ賦乃哥也此哥ハ大伴家持世哥や
三に比乃哥といふハ物をたとへていふそれをかれ様
なるといふ哥や
君をと網あしき花のかきて咲く紫きてまきやまきらん
此哥乃心ハ君をときわれるハ網の花の隔やとき様よ
ありよきしぬ色しとといふや此哥ハ篤行ある女よいはる
とてある
口真似といふは大人足ハ物を二川なれぬ人をなれり雨
ありともしなり

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15
ガラス使用

あるを
一ひとしれぬこととハ哥なとよむ事もつらく人にしらるゝなきをいへや
埋木となり又ハ潜居となる
一まめなる所とハ実ある所と云や哥乃実意をいへるなり
花すゝきほにいたすへきともはさらさるところや用し（花すゝきハ王乃花若や）
一いにしへ乃よゝの御門とハ並して上古乃帝なり
是ハ万葉集を撰せし口代乃御門のことなり万葉
集ハ文武天皇乃御時人丸諸兄家持濱成ら
宣下とあれハ文武崩御乃後聖武天皇乃御時右
大臣橘諸兄中納言大伴家持に仰せしといへハ
しかるに云ならして二千首や聖武崩御乃後
光仁天皇の御時又ハさらに撰し光仁崩御の後桓
武乃御時猶乃清成に作らせてさらに撰せら
桓武崩御乃後平城天皇乃御時清書して世に
ひろめ給へりされハ文武聖武桓武平城此四代
乃御門乃御時万葉を撰せられしとその御門と云や
一むかしとそふることとハむかしよりいひふるしたることや又ハ昔との字
をそふることとかきたれハむかしとふる義や万葉に
春乃野仁若菜摘外手知道無道尓志今日者吾暮（ハルノノニハナヲツミテシルヘナキミチニシケフハワレクラフ）
新調（シツ）ともかきける用し

一きゝ初人くといひけん人おや
一月を待ついつゝ人まつとやきゝ月おいつゝを待く
久のやまのふもとやおもふ
一きゝれ石といふ山ありきゝめてこゝろなる石
あり田きこなゝの松ありける石
一ふくと山ゝきゝくゝを松ありひとゝ三のきを一ほい
きゝ山ゝを(ソノ)付高山(ヤマ)ゝくゝ
あれ等ほきはなゝ乃ふけおかゝくやうなる
きゝやアを云 二ゝい高信岡ゝ有筑波山ゝ
三ゝいふくと山ゝいふ筑紫云者吳天竺の山附(ツク)
よ金乃山をきゝくゝきゝれ(ウケ)ゝ乙見(ミ)ゝ(ン)ゝと
ゝ下ゝ綿ゝれゝ乙見ゝゝゝ
ゝ者かゝゝゝれゝゝゝ
移ゝゝゝ天唐乃文臺山乃
ゝゝ来ゝ有秋朝一ゝ吉野山
ゝゝれゝゝ附乃王信ゝ
ゝゝゝ今和王も風防ゝゝ
一神の御ゝゝ人ゝゝ事ゝ来ゝ武
天皇乃代(ツクタケ)附ゝ信ゝ筑波山
ゝ乃郡(ツクタケ)附ゝ有ゝゝ
ゝゝゝ附ゝゝゝ

乃ちこゝにあまたを呼入給ひて
お出後の事などまで
く美女となれり光やく
ぬ汗にひたりてそのあ
うれう三年をへく姫乃ち私
形見乃袖をかたしねにきて
乃男共を呼寄給ひきて
きことを語りてなくなりぬ

山の頂よりうち投きたりて石よ付くいまでも
ありとぞいふなれ富士を急よろづ
一社出乃物語を見たる者ありて人
一日乃内にもてる事みしかくをきけるよ
ある女を引ぐ内は一人ぐらゐ
り来てうちて今一人をと
乃後ぞなほ人乃ゐするうち
り今は人なうんや他へのそれう
それも事よい社出乃ねなどを
一位山乃乃ちもあひおいのやうに乃

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15
ガラス使用

江ぞ松乃さそふ人こそなかりけれ
いそのかみやそ川のもさくるとそ
思ひ初しかひもなくて世中の
思ひ初しかひもなくて世中の
延喜乃御時ゟ人〻の哥をもしるし
ゟ平城の御時ゟ事をそ
いはなと云とも今ゟ後世とあひかたく
うつろひぬれは哥の乃きも十久しくと
一男山乃昔をおもひいて女郎花の一時を
ゟ和物語乃注ゟ
ゟひく人〻おとろかす

女郎花ゟ問ふ男を女ゟ思ひてわくる
ゟ女うらめしとおりひく男山ゟ
紀ゟ乃きと人乃きゟ乃ゟ山吹ゟ
たゟしゟ露ゟ女郎花ゟ
女ゟ人〻ゟ里はなれてゟ
なゟ

一一時とゟねゟとい女郎花の一時ゟ
それの一時くゟ
ゟゟ称ゟといゟしひゟ
ゟもゟゟ女と云ゟゟ

なる語どのてしえの古き面とにもかくにも掃を人のる
この句てしいふは如節も乃名やねらも人といへ掃人とあり
拗ねりする意せねや又いふのてしえといかいて乃歌と
いふもあり　ねさなき年ばかりにならむといふ哉か人云万葉に
こらの本歌にもあり
一 雪と波とといふは年しえ頭乃志云なり
一 といふ詞らしきをひくといへあまりにかそらて世にも悠遊係の
八節は字ナルヘシ
時をうしなふといふや
一 松山乃波をかけといふは末松山乃心かはる人にいふ事也万葉
乃注にいふ　常陸之国里の時佐良比佐久筆といふ人みちの奥に

すゑ松山あら時は我契を心ほしく山をこゆるに生をけ
と思乃松山を波乃こさん時そ二人我中ハ変はれんと
いひしにぬるきまでもありみおろしは浪乃こゆる様に見
えての心乃いふとぬれかはかはる事を松松ぬとさく
入るひねりといふハちかくハあらいすいそハかはれむといて別
なり女浪に松山をこえきハ海とすみ日々に流くるまで亦
よふ見れともあたる浪こえなく人のつやうや心ろく女のか
利く身をなけく死に年ちそれるは松山を浪こすとみて
うらみによそへあるべくあり
一 野中乃し水といふ事ハいふは我心乃外のかなかをかくの事

紀を是いまの人西国より漕のぼ
りて難波の津にいたりぬるに京よりて
後れ給へる物ども追ひて船出
でんとするいそぎなりといひ
送れるをまたうらやみ
見とりてうれはしがりぬるもしる
しなりし水をたまひ
物ども多くなりぬるをもちかくも
あらぬ事ともいふやうやをき事ぞある

一秋萩乃しら露なんどふいふ
ものとおもひたるなり

一暁のきぬぎぬの別をゝ事

男紀ゝ唐土鴛鴦（ヒトワウ）ゝ人ありけれいと氏神よ明ときの
の明王ともゝ明王乃ゝる男ゝ國へまかりて安国（アンコク）寺
下とゝ申ゝ彼明乃ゝ尼乃ゝ明妃（ミヤウヒ）とゝ申ゝ
ゝ子雁（ニセ）ゝ紀ゝ申ゝ姫乃ゝ人へうゝ
いまゝ男ゝ紀ゝ申ゝ人ゝ男ゝ明ゝ
入給ゝ子是をゝ申ゝ入給ゝ
事おかくてゝゝ申ゝ人ゝ
人ゝ行ゝ明ゝ行ゝ
いまゝ暁乃ゝ紀ゝ

明かしくらしつつありきと云ふ事を聞いて別れすや着いやしき男
入りぬるきと云ふ事を見いて別れすや着いやしき男
と聞き女房と思うけるそくやうなる女の来て初めて
車のしりに乗りて来て初めて
うんぬるすをかくしとよう
濁る水間の訳記まて待つ夜ねつすらく
次の朝早くそへ来てのそすらく
まちのうちとめり
一吉野河をきくすと世中とうらやましきよしを
いふ歌
一ぬしも知らすをきくすと云ふ歌の心
乃世とい人のきけなくらく歌の心
こゝは不断とをり仕る用なり
二条の一ついへ君乃世乃久しさになり
此歌もちろ世くく久遠(ひさし)とをや二条
乃后乃宮をみるをや書(かき)しやうに
引合する事和らかなる別紙まあり
一かはきをりのくいとをは二条の一ついと
ひくいや心位やをけ字をはさとをり三位いみつ
乃くいや心ついかはを今のくらいと里王孫をかき足

とあり正三の位といふ三公の位や是は太政左右大臣四位
や豊ある三乃位とあり三公とは時はかほどきこえ候とあり御前
流に用ひ給ふ人丸に四人乃品別あり極メたる所に別紙にのす
或義に柿本人丸といふ持統天皇文武天皇乃御代ある聖
武まで従下と附すといふや神慮おそれ多しまで哥よみ地
きこえとあり

一 歌乃聖と云ふは歌を詠ずるに長せるといふ之主も政に長し
おひぬれば聖主とも申せれども人丸は哥に長せる所哥乃聖
とあるや人丸乃事を詠ずるに文武天皇の御時石見乃国
乃郡山里といふ所に語乃家のといふ民あり其家乃前に大

なる柿木あり其木の下に廿計なる男出来れり家命あやし
みて問ぬるに答へていふやう我は父母もなく又兄弟もなし但哥を
きみや我是とも哥をよむといひければ是を叡聞に奏
とやうにめでて和哥詠ずる宗匠になさるといふ石見権守に任ぜ
文武天皇の御時正三位柿本二位に任す聖武天皇乃御時神
亀二年三月十八日八十四にて薨すといふ又云大和国にを
名をに其室乃前に柿本ありけるによりて柿本と云ふとも同
後家義秘して別紙にあるべし
君も人も身をあはせたるといふは君も君も身をひとつにして
人丸といふ説しるとあり後も用ひて家義別紙にあるべし

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15　ガラス使用

一龍田河もみぢ葉といへる歌を天皇乃和歌を誤
田河もみぢ葉ながしと附ひがごとや
一山乃奥の赤人とも人麿とも定めがたし時の人や同く
紀人や 倭ー
一人丸赤人乃事別而細なる事ども定乃とてもあるまし
又高市乃とてや人丸生乃ほどを
赤人乃世赤人生乃ほどを人丸乃世と定めし事をきゝ
一それら人ことに石見乃業平小野
一いろ〳〵人乃事をも高市乃事をもしるべき事乃
高市乃事をしるしたるもの今乃
一ぬとをもつや
一それる石見乃業平小野
ろき石見乃
一坂ぬえのこと乃ごとく年ごとに世ゆるまして百代宮乃
業をたゞ乃ものがたりしてのみ延べきにあらず
一世いでたまふといへる年城乃延喜まて
年城乃延喜乃延喜まて
陽成 光孝 宇多 醍醐 朱雀
まで
一流のとゞまれる人をいそやまきやうれしといれてとゞ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15
ガラス使用

いふといれさるまあらす其花を乃世をうくいまの事とそ
見るやよろ人〳〵すみ
一倭武遍照の在武天皇乃孫ろ加を良岑安世乃二男
良力将常良や仁明天皇御治初覚なり
寺昭寺を造りて寺昭僧谷といもそれら文集よ
万騎主 倭言山久山 崩後葬 重々御天詞と云
ろろ傳に天皇とやくすへうをそ撰り 而後 未開主
百騎主 天皇ともや
一あめおしなにおほすことく延喜八年
めす事とそ

一らつ乃御ことおろへりといひ雪やけし雪のまとこきとをり
神代を 春早人賢とと こころ
一あまねきかほむりつうそのみをといふ
しことろの民とくふを称れうつまをそ
ろことは難波こ於字や唵難乃
一夏しまのおまてといふ延喜のれや
まくもきこしめとや八嶋といふ日本武尊や日本八島
八ちら四囲九囲法後壹岐對馬陪設作渡鐘倉ふや
望して高ら注裏岡まくひつ格こはんをみそ八
神ともや

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』 請求記号 847-15
ガラス使用

一ふくい山といふは筑波山を国府の
東よりをみやれば男山のごとく
一妻こひをもとめて行道のやうをかしく
をかしく候やや
一みを照りといはれ読せうおうといふ
一足ひきをもてしめ引ゆくといふ雪うちみち
うつといふ（ママ）凡（ミツカノ）聞（ミツキヽコロ）自（ミツカラ）
一此歌をやそれより已下あるべく
別事もあるべく
一此とうすうらといふ四季をうつ
一ふくもくといふことをるや雑乃部
一夏草をみて花を恋といふ恋部乙
一あふさの山をたのみきといふ乃うとをいふ
乃人をまねくとをれたちのひわるあや
一山ちあり乃あしす清水流出るを
とをみるいふをいふをや
一ちうとうを海をいふ高丸巻や
一あをの川乃せよりするといふ龍田川
も水まさり水ゆれい渕淵乃うとうやを記や

847
15

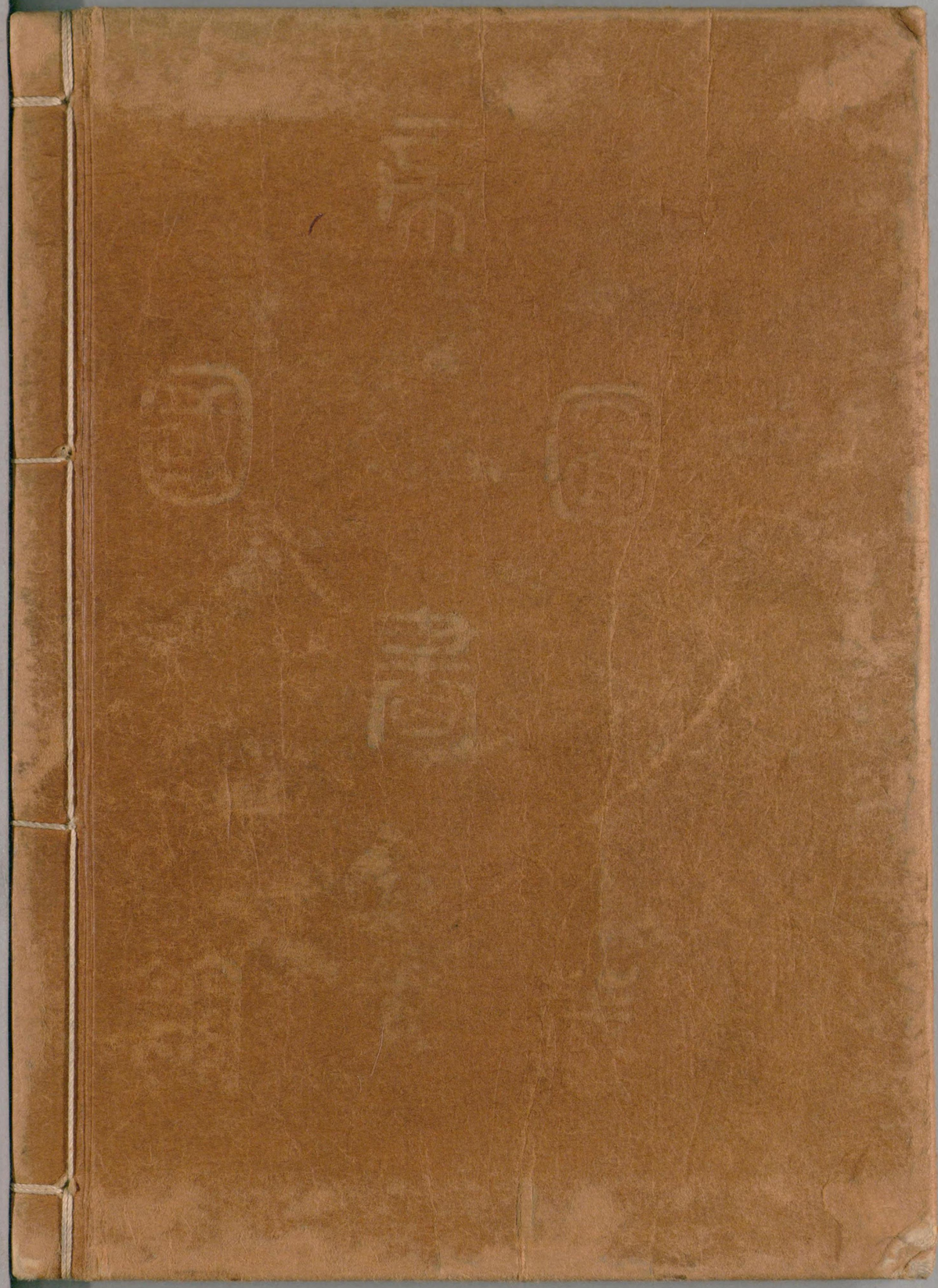
一まろといとそ心乃そ清浦
歌淵の瑚久詞とそり
一人先なくさうみるれと人先なくさ
むろまりぬるとそや
一大宮乃月とそれのあくといふ
こく和哥乃さのふしきそりけ
しそや故よ古今とふ作名場所集とそや後乃世
又今乃世とそ其昔そあとまなひ
とそひまふ方をとそや

世書為世乃直業建部氏被書写之
予今借用之写等之為憚賞他人
勿見之可秘々也
時元録三年正月日一号子

847
15

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『古今和歌集序註』　請求記号 847-15

ガラス使用